養蚕プロジェクト

～創立100周年に向けて～

石川県立津幡高等学校　３年　西田美乃　受川明里　油野里奈

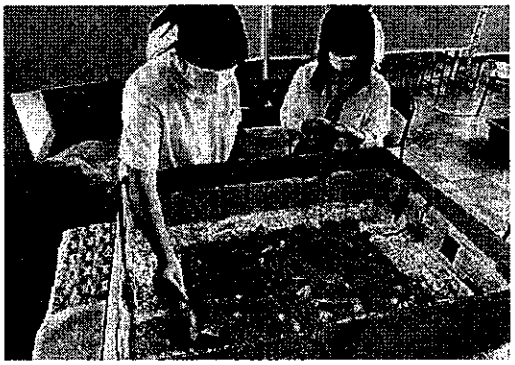
Ⅰ　はじめに

大正１３年、河北郡に農学校という地域社会の熱烈な要望の中で、河北郡町村組合立河北農蚕学校として農科・蚕科の２学科をもつ学校として設立された。

その後、世界恐慌の影響から養蚕では農家の経営が困難となる時代の中で、昭和１１年３月、校名を石川県立津幡農学校と改称した。戦後、昭和２年に開校した津幡女学校普通部と農学校の農学部が統合し、昭和２３年、現在の津幡高等学校が誕生した。

現在は２クラス３系列（進学・ビジネス・園芸）の総合学科とスポーツ健康科学科２クラスの２学科を備えた高校として、「地域の中に、地域とともに、地域のため」にある学校の存在意義を高める努力を続けている。

令和５年度の創立１００周年に向け、総合学科の園芸系列で「養蚕プロジェクト」を立ち上げ、石川県における養蚕の意義の見直しや、素材から製造まですべてが地元石川県産の絹製品の生産をめざして研究開発を進めることになった。



Ⅱ　系列選択からマスク製造まで

１　学校設定科目「グリーン基礎」

（令和４年度より「農業と環境」）

平成１３年の総合学科改編から全員履修として設定した科目である。野菜や草花の栽培について「実習学習」「実体験」等の年間学習を通して科目選択の参考にする役割を担っている。また農業に対する興味・関心を高めることにもなり、系列・科目選択につながっている。

２　園芸系列での養蚕

（1）　養蚕過程

令和２年度の園芸系列２年生３２名が、初めて授業で養蚕活動に取り組んだ。それ以前は、園芸部でしか飼育を行った経験がなかった

（成果と課題）

生き物であるが故に、休日や、朝・夜までの給桑作業（エサやり）など、手を抜けない作業が多く、生命に対する責任の重さを感じることができた。

また、飼育を行う際には、温度や湿度に気をつけなければならず、教室で育てるのには苦労した。また、飼育道具などは一切ないので、養蚕活動を行うための環境づくりにも工夫が必要だった。

（2）　マスク製造過程（繭～生糸～製品）

出来上がった繭は、長野県岡谷市にある㈱宮坂製糸所にお願いして生糸にしていただき、地元石川県小松市の山木絹織で、絹製品に仕上げていただいた。

（成果と課題）

今回の一連の作業工程を通して、織物産業が盛んだと言われている石川県には製糸業者が１社もなく、全国でもたった７社という我が国の養蚕業の危機的現状が分かった。

Ⅲ　商品化と販売について

自分たちがゼロから作り上げた繭から「シルクマスク」が誕生し、それを自分たちの手で販売することができた。その際に、価格設定や販売方法について、地域の農業者である「かほく農業青年グループ」方々にアドバイスをいただいた。